

杉本 誠司（すぎもと・せいじ）先生

株式会社ニワンゴ 代表取締役社長

株式会社ドワンゴにてモバイル向けのビジネスツールや電子書籍サイトなどの新規事業を担当し、メールポータル「ニワンゴ」の立ち上げに携わる。

株式会社ドワンゴコーポレート本部広報IR室広報室長 兼ニコニコ事業本部アライアンス事業部部長、株式会社ニワンゴ代表取締役社長、株式会社スカイスクレイパー取締役。

【参考HP】

ニコニコ動画 [http:// www.nicovideo.jp](http://www.nicovideo.jp)



《講義概要》

株式会社ニワンゴの代表取締役社長として、人気のコミュニティーサイト「ニコニコ動画」の企画・開発・運営を手掛ける杉本誠司氏が、ニコニコ動画の進化について講義を行った。

講義ではまず、ニコニコ動画について、動画という共通の話題を通じて多くの人と繋がりを持つ機会を体感する場所であると言及し、その概要や目的を詳細に説明。生放送で社会的・政治的な番組を扱う等、様々な新しい試みに挑戦し、進化を続けている現状を紹介した。

また、デジタルネット文化の発展による音楽シーンの変化について解説。CDの売上が低迷する中、レコード会社はニコニコ動画と音楽原盤利用許諾を締結する等、音楽業界全体で新たなビジネスモデルの構築を進めている現状を伝えた。さらに、ニコニコ動画をめぐる著作権問題についての様々な対策を紹介し、今後の課題についても言及した。

最後に、ニコニコ動画の今後の目標は、全ての人たちがインターネット上で生活基盤を保てるようになること、生活空間を提供し続けることであると伝え、ネットを通じた新しいエンタテインメントのあり方と今後の展望を見据える講義となった。

《受講生の感想》

●ニコニコ生放送はテレビと違って全てが放送され信頼性が高いので、マスメディアにおいてこれから重要になっていくと思いました。また、地震のときのように天災が起きたときはインターネットを使い情報を提供してくれているのはすごく便利であり、これからはなくてはならないものになっていくと思いました。VOCALOID を使って誰もがアーティストのようになれることはすごいと思った。素人がインターネットを通じて音楽を中心に情報や、才能を活かしたものを発信できることは面白いです。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●ユーザー同士の交流の場を提供することで、こんなにも多くのコンテンツが生まれていることに驚きました。コンテンツを手元に持って大事に育てることも大切ですが、ニコニコ動画のように、多くの人々の考えに触れさせ、形を変えるような、ある意味手放しなコンテンツが今の流行になりつつあると感じた。音楽業界に限らず、この「コンテンツ・エコシステム」をやってみる勇氣と、チャレンジ精神が今の日本には必要なのかなと思いました。

立命館大学・映像学部・4回生

●今回の東日本大震災で多くの通信機器が使えない中、ニコニコ動画によって救われた人はたくさんいると思います。現代人のニーズに合わせて進化し続けるニコニコ動画の力にこれからも注目していきたいです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●ニコニコ動画は YouTube とほとんど同じようなものだと考えており、あまり見たことがありませんでした。今回の講義でニコニコ動画の運営方法や、ねらいを理解することが出来、私のニコニコ動画に対する印象はすごくしっかりしている媒体であり、社会を担うものとなりそうだと思います。また、ビジネス性においても、しっかりと考えられており、近未来的な一歩進んだものだと感じ、今までの概念を良い意味で変えるものだと感じました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●著作権による規制によってボーカロイドなどの様々な新しい曲が生まれ、それによってCDが売れたり、ライブに多数の人が動員されたり、大きな経済効果が生まれ、新しい文化が出来ていく過程を知り、すごいと思った。人の中にある発想や伝えたいことを気軽に発信できる場がニコニコ動画であり、そのような場所があることは文化が発展するために必要だと感じた。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●ニコニコ動画で政治や時事ネタの生放送をしていたことは初めて知りました。ニコニコ動画の最大の目的は「動画という共通の話題を通じて多くの人と繋がりを持つ機会を体感する」ことだと仰っていました。これからのネット社会ではツイッターや SNS サイトをはじめ、お互いにコミュニケーションをとることが大切になってくると思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

